

第37週の発生動向(2005/9/12~2005/9/18)

1. 咽頭結膜熱は、むつ保健所管内で再び、青森保健所管内で引き続き**警報**が出されています。
2. 伝染性紅斑は、上十三保健所管内、むつ保健所管内で引き続き**警報**が出されています。

第37週五類感染症定点把握

保健所名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															0
(60) 咽頭結膜熱	7	0.88									5	1.25	12	0.29	4
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.38	14	1.40	1	0.11			1	0.17	1	0.25	20	0.48	0
(62) 感染性胃腸炎	17	2.13	15	1.50	4	0.44	3	0.60			3	0.75	42	1.00	5
(63) 水痘			2	0.20	1	0.11	1	0.20	2	0.33	3	0.75	9	0.21	-14
(64) 手足口病	8	1.00	5	0.50	6	0.67	2	0.40	5	0.83			26	0.62	-10
(65) 伝染性紅斑	8	1.00	5	0.50	5	0.56			9	1.50	5	1.25	32	0.76	0
(66) 突発性発しん	2	0.25	3	0.30	6	0.67	1	0.20	4	0.67	6	1.50	22	0.52	-2
(67) 百日咳					1	0.11							1	0.02	1
(68) 風しん			1	0.10									1	0.02	0
(69) ヘルパンギーナ	11	1.38	11	1.10	5	0.56	1	0.20	6	1.00	7	1.75	41	0.98	-11
(70) 麻疹(成人を除く)							1	0.20	1	0.17			2	0.05	2
(71) 流行性耳下腺炎	1	0.13			7	0.78			6	1.00	1	0.25	15	0.36	-10
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性性角結膜炎	2	1.00	1	0.33	6	3.00	1	1.00	4	2.00			14	1.27	-3

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (小児科+小児科)	小児科	内科	眼科
青森	13	8	5	2
弘前	16	10	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
合計	65	42	23	11

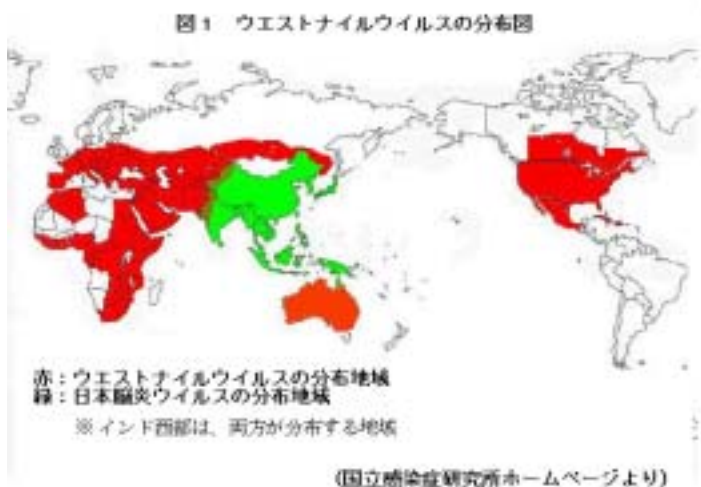
■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

- (47) 急性脳炎(五類全数把握疾患) 弘前保健所管内: 1人 (17年計 2人)
(82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 6人 (17年計 103人)

感染症の窓

ウエストナイル熱



1999年、ニューヨーク州でのウエストナイル熱の流行以降、我が国においてもウエストナイル熱の侵入が起これらと考えられるようになりました。現在、ウエストナイル熱は、アフリカ、ヨーロッパ、西アジア、アメリカに分布しており(図1)、日本国内での感染報告例はありません。

病原体は、日本脳炎ウイルスと同じフラビウイルス属のウエストナイルウイルスで、**トリと蚊の間で感染サイクル**を築いています。ニューヨーク州での流行時には、カラスに最も高い感受性を示したことが確認されています。

ヒトには、ウイルスを保有した蚊に刺されることで感染します。感染者の約80%は不顕性感染に終わり、感染者の約1%が重篤な症状(激しい頭痛、高熱、頸部硬直、弛緩性麻痺、髄膜炎、脳症)を示すとされています。重症例は主として高齢者に多くみられ、死亡率は重症患者の3%~

15%です。しかし、脳炎を発症する危険性は小児を含めて全年齢層にあります。ワクチンがないので、予防として、流行地域では、長袖長ズボンを着用し、虫除け剤の使用等で蚊にさされないよう注意が必要です。

県では、ウエストナイル熱の侵入対策として、死亡カラスについての情報を集めています。カラスの死体を発見した際には、最寄りの保健所まで情報を提供くださるようご協力ください。